

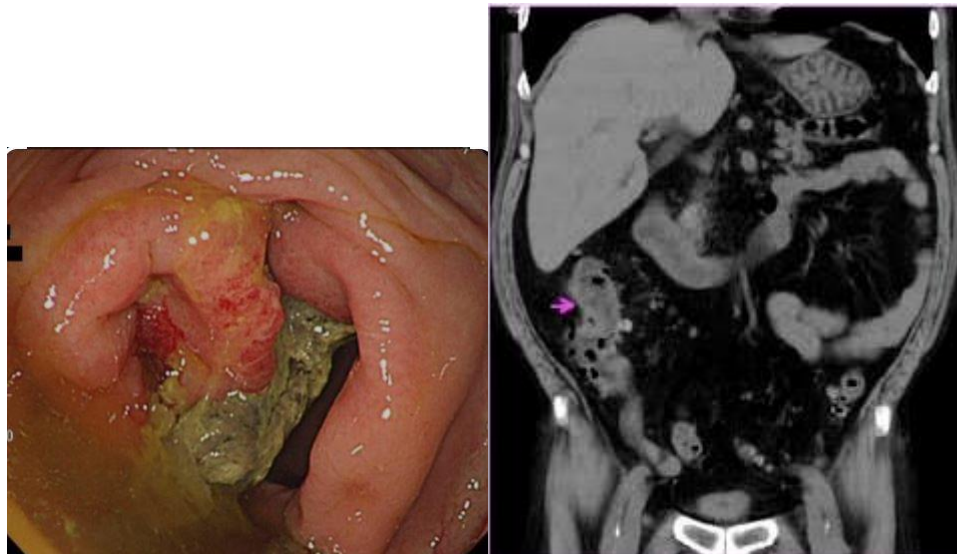
73 歳の男性、腹部膨満と腹痛を主訴に来院した。アルコール性肝障害および高血圧の治療を受けていた。以前大腸癌と診断され入院していたが、昨晚より腹部膨満感が強くなり腹痛も生じてきた。意識は清明。身長 163cm、体重 68kg。体温 36.6℃、脈拍 96/分 整。血圧 140/91mmHg。腹部はやや膨隆し、腹部全体に圧痛を認めるが、Blumberg 徴候と筋性防御とは認めない。尿所見：蛋白（－）、糖（－）。血液所見：赤血球 346 万、Hb9.7g/dL、Ht28%、白血球 9100、血小板 16 万。血液生化学所見：血糖 106mg/dL、総蛋白 7.1g/dL、アルブミン 3.3g/dL、尿素窒素 19mg/dL、クレアチニン 1.1mg/dL、総コレステロール 211mg/dL、総ビリルビン 2.7mg/dL、AST 135U/L、ALT 98U/L、LD346U/L（基準 176～353）、ALP 420U/L（基準 115～359）、Na134mEq/L、K4.1mEq/L、Cl96mEq/L。CRP1.2mg/dL。腹部エックス線写真を下に示す。



問1 まず行う対応として最も適切なのはどれか。

- a 内視鏡的切除術   b 輸血   c 腹腔穿刺ドレナージ   d 消化管内圧減圧治療   e カテーテル塞栓術

問2 下部消化管内視鏡の画像と胸腹部造影 CT を下に示す。治療として最も適切なのはどれか。



A 経過観察   b 副腎皮質ステロイド投与   c 回盲部切除術   d 大腸全摘術   e 全身化学療法